

第12回千葉県福祉機器展 2017 開催報告

【はじめに】

千葉県福祉ふれあいプラザでは、今年も11月10日（金）午後から11日（土）16時までの1日半、「第12回千葉県福祉機器展 2017」を開催し、出展者を含め延べ2,088人の方の来場がありました。

今回は介護支援ロボットや見守りセンサー、アルツハイマー型認知症早期発見・物忘れ相談プログラムのほか、各分野の最新の機器を展示し、来場者に体験いただきました。

また、介護人材発掘の観点から福祉・介護事業者と専門学校生によるトークやデイスervisでの各種取り組みの紹介、作品展示などを新しく取り入れて、介護福祉関係者の直面している課題に対応する企画をより多く実施しました。

専門学校生や高校生、ハローワーク松戸や我孫子市地域包括支援センターなどの参加も得て、利用者を含め「各方面の連携の場」としても有意義な福祉機器展を目指しました。

【特別講演】

福祉機器展は、浴風会認知症介護研究・研修東京センター研究部長の永田久美子さんによる特別講演「認知症になっても安心・安全に暮らせるまちを目指して」から幕を開けました。永田さんは初めに手賀沼や桜の名所、稲刈りの様子など、我孫子・柏地域の代表的な風景を示しながら、「この町で、暮らしてきた。たとえ認知症になったとしても、一人ではなく、一緒にお互いができることを始めていきましょう」と話を始めました。

そして、「地域の『つながり・理解・支援』を増やすと、認知症の発症や状態悪化を遅らせることができます。発症は避けることができないかもしれませんが、『つながり・理解・支援』の有無で、平均15年、長い場合は20年のその後の人生行路が大きく変わります。本人のいいところを探してほめたりすると、自信がついて状態が改善される人が多くいます」と続けました。

「認知症の発症や悪化の引き金として、アルツハイマー病や脳血管障害などの『原因となる病気』のほかに、『からだ』や『こころ』、『暮らし方・環境』といった要素が大きく影響します。特別なことをしなくても、家に閉じこもっていないで外に出て、脳を大切に、よく眠り、栄養不良にならないようにすることが大事です。急にもの忘れが多くなったり、話や行動が変になったりしたら、体が大丈夫かと点検することも大事です。話がしやすいかかりつけ医をつくって、からだの変化などを自分から伝えましょう。地域包括支援センターとの相談を先送りしないことも重要です」と述べました。

さらに、これからのためのポイントを4点挙げました。

まず、1点目として、「認知症になったとしても、隠さないで早くオープンにしましょう。普段からなんでも言える仲間をつくれば、周りが支えてくれて、自分でもできることが増えていきます。支えられる一方ではなく、地域の支え手にもなれます」と、地域で活躍している人の実例を挙げました。

2 点目として、「自分が自分らしく暮らしていくために、習慣、好み・嫌いなこと、思い出、願いなどの大切なこと、大事にしたいつながり(人や場所)を書き留めておきましょう」と提案しました。「自分には当たり前のことでも、伝えておかないと周囲の人にわかってもらえないですが、伝えたら、その人に合った適切な支援、医療・介護の重要な手がかりになるから」だそうです。

3 点目として、「日々の生活の中で、大きなことでなくても、周囲の人とちょっと一緒に楽しいひと時を楽しみましょう」と呼びかけました。「ちょっと一緒に楽しむ」とは、将棋や釣り、生け花、散髪、図書館や近所の田んぼ、風呂、飲酒などに行くことなどだそうです。

4 点目として、「一人で頑張らず、『認知症になっても一緒に』と言い合える仲間やつながりを増やしましょう。普段の仲間が、いざという時の命綱になります。認知症を隠さず知り合いに伝えて、理解者を増やしましょう」と呼びかけました。

5 点目として、「行きたいところに出かけ、無事に戻ってこられるために、元気な頃から、『連絡先カード』や『ヘルプカード』、GPS 付きの機器を使い慣れておきましょう。家族や周囲は、見守り協力の登録をしたり、行方不明になった時の連絡や探す流れを確認したりするなど、市町村の取り組みの情報を知って生かしましょう」と話を終わりました。

来場者からは、「永田先生のゆったりとした話し方もあって、認知症になっても希望が持てるように発想の転換を図りたいと思った」など、好意的な感想が寄せられました。

【このほかの主な実施状況】

● 11 日(土)には早稲田大学名誉教授・大橋一章氏による認知症や日本の福祉のルーツに関するお話を聴きました。また、藤原歌劇団正団員・ソプラノ歌手、佐藤康子さん(我孫子市出身)のアカペラによるオープニングは圧巻でした。

● 福祉機器・車両・関連用品などの展示については、両日とも各社から新しい特色ある機器を出展いただくとともに、10 日(金)には会場内で「介護ロボットを利用して利用者の安心とスタッフの負荷軽減につなげる機器の紹介」と題してセミナーを実施し、関係者の関心呼びました。

● 介護の仕事に興味を持っていただく企画として、11 日(土)午後、江戸川大学総合福祉専門学校学生による「必見!! 現役福祉職員と専門学生による生討論会! ~現役福祉職員のホンネに迫る~」を、多くの学生の参加を得て実施し、注目を集めました。また、福祉コースの開設を控えた我孫子東高校の生徒には、20 万本近くのつまようじで人気漫画の主人公をモザイク画に仕上げた巨大アートを出展してもらい、ボランティアとしても協力いただきました。

● 今年も千葉県在宅サービス事業者協議会、我孫子市介護サービス事業者連絡協議会をはじめ多くの皆様のご協力で、盛りだくさんの企画を実現できました。我孫子市内のデイサービスでの各種音楽療法や転ばん体操などの紹介イベントも大いに盛り上がりました。

添付 会場風景



メイン会場内



専門学生と介護職との生討論会



特別講演



ホワイエ風景



館外展示

